

アマチュアオーケストラ

新響122

新交響楽団第122回演奏会

●デュカス

魔法使いの弟子

●レスピーギ

リュート のための古代舞曲とアリア

●ベルリオーズ

幻想交響曲

●指揮

山田一雄

1.22(日)1989

サントリーホール 2:00p.m.

アマチュアオーケストラ
新交響楽団第122回演奏会

ポール・デュカス：魔法使いの弟子

Paul Dukas：L'apprenti Sorcier

オットリーノ・レスピーギ：リュートのための古代舞曲とアリア

Ottorino Respighi：Antiche Danze e Arie per Liuts

第1楽章：イタリアーナ
第2楽章：宮廷のアリア
第3楽章：シチリアーナ
第4楽章：パッサカリア

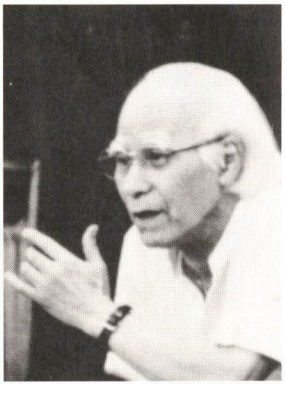
―― 休　憩 ――

エクトル・ベルリオーズ：幻想交響曲

Hector Berlioz：Symphonie Fantastique

第1楽章：夢と情熱　Largo
第2楽章：舞踏会　Valse Allegro non troppo
第3楽章：野の風景　Adagio
第4楽章：断頭台への行進　Allegro non troppo
第5楽章：ワルプルギスの夜の夢　Larghetto

1989年1月22日(日) 2：00 p.m.
サントリーホール
主催：新交響楽団



山田　一雄

1912年東京生まれ。1935年、東京音楽学校ピアノ科卒業、37年専攻科修了。マーラーの弟子プリングスハイムに作曲を学び、日本放送協会懸賞1等、ワインガルトナー賞などを得て作曲家としての地位を築く一方、ローゼンシュトックに指揮法を学ぶ。1941年新交響楽団（現N響）補助指揮者、翌42年、日本交響楽団と改組の際、専任指揮者に就任。マーラーの交響曲第8番、ストラヴィンスキー「春の祭典」、ベートーヴェン「荘厳ミサ曲」等、多くの日本初演、邦人作品初演を手掛け、日本の音楽界の指導的役割を果たした。

現在、京都市交響楽団芸術顧問正指揮者、新星日響名誉指揮者、日本マーラー協会理事長等をつとめる他、東京芸大、武蔵野音大等で指導にあたっている。

76年紫綬褒章、78年芸術選奨文部大臣賞、84年勲四等旭日小綬章、86年芸術院賞を受けた。84年より当団名誉指揮者。

●アラーム付時計をお持ちの方はアラーム・時報の解除をお確かめ下さい。

デュカス　魔法使いの弟子

ポール・デュカスを知らない人でも、交響詩「魔法使いの弟子」なら知っている人も多いのではないか。いや、それを知らなくても、ディズニーの映画などで、一度はこの曲を聴いたことのある人はもっと多いに違いない。この曲の場合「魔法使いの弟子」という標題がついているために、映画になったり、学校で聴かせたりするのであろうが、よくよく聴いてみると、かなり凝った作品である。特にスケルツォの部分は、主題の精緻で徹底的な展開の手法が思う存分そこに盛りこまれているのである。

もともと、「魔法使いの弟子」とは、ゲーテの有名な韻文バラードで、それをフランス語に散文訳したアンリ・ブラツのテキストをプログラムとし、序奏とコーダつきの交響的スケルツォの形式で作られたのが、交響詩「魔法使いの弟子」である。

全体は標題に従って、三つの部分に分けられている。

〔序奏〕ヴィオラとチェロの神秘的なフラジョレットに乗って、ヴァイオリンとクラリネットなどの木管楽器によって、弟子が水汲みの魔法の「呪文」をとなえる。魔法はだんだんきいてくる。

〔スケルツォ〕ほうきの「水汲み」は、ファゴットにより、いく分おどけた表情で吹かれる。弟子は、得意になって、もっと水を運べ、ととなえ続ける。「水汲み」のテーマと「呪文」のテーマは徹底的に反復、繰り返される。そのあいだにも水はどんどん増していく。ところが彼は魔法をとく呪文を知らないことに気づく。自棄になった彼は、水を運んでいるほうきに手斧を投げつけるが、ほうきは二つに割れ、二本で水を運びはじめる。この辺は、色彩的な管弦楽法とともに、圧倒的な迫力をもって盛りあげられていく。まさに、デュカスの独壇場である。弟子は「呪文」を絶叫してみるが少しも利き目はなく、自分も溺れそうになる。

〔コーダ〕金管のファンファーレによって、先生のご帰館が告げられる。先生の呪文がとなえられると水は静かに止まってひいてゆく。

最後にゲーテの標題をかかげておこう。

とうとう老先生のお出かけだ。今こそ、先生とおんなじ魔法を自分で使ってみよう。呪文も魔力を呼びおこすやり方もすっかり見ておいた。あのやり方で、ひとつ一生懸命にやってみよう。そうすればきっと奇蹟が起きるにちがいない。

≪呪文の力によって水は湧き出で、大桶にて湯浴みするときのごと、流れ出よ！≫

長いあいだ先生の走り使いをさせられていたが、今こそ自分で思うままに魔法が使えるのだ。さあ、急いでバケツを持ってこよう。

≪呪文の力によって水は湧き出で、大桶にて湯浴みするときのごと、流れ出よ！≫

万歳！まるで大河のようだ。思うままだ。

止まれ、止まれ。あっ、しまった、困ったぞ。魔法をとく呪文を忘れてしまった！

ありとあらゆる方法をやってみたが、みなどれも駄目だ。絶望は怒りにかわって、彼は魔法のほうきに斧を投げつける。命中！

やれやれ助かったと安心したのも束の間、水は前にも倍して流れて、玄関も階段も家の中じゅうあふれ出す水かさとなってしまった。

助けてくれ、と叫んでみても無駄である。とうとう彼は先生を大声で呼ぶ。

先生が帰ってきた。

≪先生、私が呼びだした魔法が、うるさくつきまとって離れてくれないのです！≫

≪隅へゆけ、もとの姿になれ！お前たちを追いだすことのできるのは、この大先生だけなのだ≫

（Vc. 長島　良夫）

レスピーギ　リュートのための古代舞曲とアリア

「リュートのための古代舞曲とアリア」は第１組曲（1917）・第２組曲（1923）・第３組曲（1932）と全３集あるが、いずれも副題に「オーケストラのための自由な編作」Libera transcrizione per orchestra と記されている。これらの曲は、16世紀ごろにヨーロッパで全盛だったリュート音楽の作品に原曲を求め、イタリアの作曲家レスピーギ（1879～1936）が現代のオーケストラ用に自由に編作したものであ

る。各組曲はそれぞれ4楽章構成になっている。

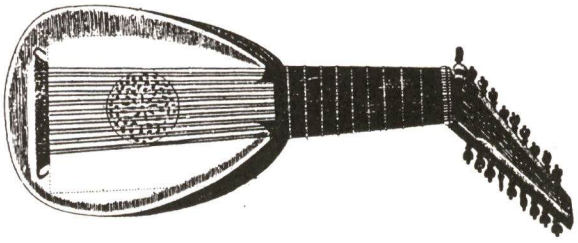
本日の演奏曲目である第3組曲は、3つの組曲の中でも最も編成が小さく弦楽合奏で演奏される。レスピーギの弦だけによる昔のリュート音楽の近代的再生法はみごとであり、リュートの特徴を生かすと同時に、新しい面も開拓したといってよい。

第1楽章：イタリアーナ（原曲：作曲者不詳　16世紀末）
第2楽章：宮廷のアリア（原曲：ジョバンニ・バッティスト・ベサルド作曲　16世紀）
第3楽章：シチリアーナ（原曲：作曲者不詳　16世紀末）
第4楽章：パッサカリア（原曲：ロドヴィーゴ・ロンカルリ作曲　1692年）

リュートについて

棹（ネック）をもつ撥弦楽器で、ギターとのおもな相違点は、共鳴胴に横板をもたず、背面が円く起伏するところにある。起源は中近東とみなされ、直接の祖先は中世のアラビアで愛用された「アル・ウード」（「木」の意）である。弦は最高弦を除いて複弦で、伝統的にガット（羊腸）を用いるが、現代ではナイロンを使う奏者も多い。膝の上に抱え、指先を直接ふれて弾弦する。

リュートのための音楽が興ったのは、15～16世紀のルネッサンス時代である。その後ヨーロッパのほとんどすべての国に広まり、「楽器の王」とよばれた。しかしリュートとその音楽は18世紀半ばからしだいに衰え、ピアノなどの鍵盤楽器の勢力の前に忘れ去られていった。今日ではこの楽器のための新曲が作られる例はほとんどない。



レスピーギについて

オットリーノ・レスピーギは1879年ボローニャの音楽家の家庭に生まれ、父からヴァイオリンとピアノの手ほどきを受けた。ボローニャ音楽院で学んだ後ロシアへ行き、そこでリムスキー＝コルサコフに管弦楽法の教えを受けた。さらにベルリンでブルッフについて作曲の勉強を重ねた。

1913年ローマの聖チェチーリア音楽院の教授に就任、後には院長となり、作曲を教える一方、図書館にこもってグレゴリオ聖歌やバロック音楽など昔の作曲家の作品の研究に没頭した。その成果が「リュートのための古代舞曲とアリア」や「グレゴリオふう協奏曲」「ミクソリディア調協奏曲」などの作品にあらわれている。

また、レスピーギの人気曲目である「ローマ3部作」（「ローマの噴水」「ローマの松」「ローマの祭り」）の華麗なオーケストレーションはリムスキー＝コルサコフゆずりであり、そのモダンなサウンドは彼の創作の頂点を示したものといえる。

（Vn. 滝沢　亮）

ベルリオーズ　幻想交響曲

史上最高のラヴ・レター“幻想交響曲”

ロマン派音楽の権化ベルリオーズが、まだ無名の音楽家であった1830年（28歳）、当時人気絶頂であった年上の女優ハリエット・スミスソンに対する恋心を楽譜に綴ったのが、この〝幻想交響曲〟である。

激情家で思い込みの激しい彼は、まるで相手にされることもなく、悶々とした日々を過ごすことになるわけだが、その悶々とした日々が、音楽を変えてしまうほどのエネルギーになるわけである。

1830年12月5日にパリ音楽院大ホールで初演され、さらに改訂されて1832年12月に同じ場所で再演された時は、当然のごとく賛否両論の大きな渦。

所狭しと多くの楽器が並んでいるところから出てくる音響は、それまでのどんな音楽よりもはるかに巨大なものであった。実にそれは、20世紀、現代の大ホールの空間を満たす響きを先取りしたものだったのである。ベートーヴェンの交響曲を大編成のオーケストラで演奏するようになったのは、もっと後の時代であるから、当時、このオーケストラ作品は、全く斬新なアイディアであったわけである。

と、ここまで友人から教わった事を書いてきて、私は、ベルリオーズを少し見直さなくてはいけない

な、感謝しなくてはいけないな、と思うのである。この小文を美しい人からたのまれた時、私は会社のベルリオーズの好きな上司に聞いてみた。

「こんど、新響の曲目解説をたのまれましてね」

「書いたろか」

「いや、自分の感想も書きたいので、いろんなレコードがほしいんですよ」

後日、

「どうも、幻想ってのは、泥くさくないですか？」

「とってもいい曲じゃないか」

「どうもフランス音楽って感じがしない」

「じゃあ、なにかい。フランス音楽ってのは、ラヴェル、ドビュッシーのことを言うのかい」

「ええ、あの洗練された響きこそ、フランス音楽の主流」

「それは偏見だ。じゃあ、ラヴェル、ドビュッシーと対極をなすフォーレはどうなるんだ？」

「フォーレこそは最も正しいフランス音楽」

私のベルリオーズに対する印象はこんなものである。しかし、彼のおかげで、トランペットがその正当な待遇を受けられるようになったことに関しては、感謝しなくてはいけない。幻想が音楽史上、重大な曲であるのは、まさにこの一点に尽き……。

ところで、この曲の初演、再演の時には、お目当てのスミスソンも姿を見せている。自分への恋心を綴った音楽が万雷の拍手を受けているのを目の当りにすれば、心を動かされないはずはない。ベルリオーズは目でたく、彼女と結ばれたわけである。

第１楽章　夢と情熱
第２楽章　舞踏会
第３楽章　野の風景
第４楽章　断頭台への行進
第５楽章　ワルプルギスの夜の夢

「恋を失った若い芸術家が自殺しようとして阿片をのむが、薬の量が足りず、一連の奇怪で幻想的な夢を見る」

やっぱり本質的にベルリオーズは明るくて楽天的である。「薬の量が足りない」ところなどペシミズムのかけらもない。この辺がどうも私には物足りないのである。

（Tp. 青木　日出男）

フランスの友人への手紙

○月○日　東京にて

親愛なる友よ

自分が新響の一員でありながら、このアマチュア音楽団体を称賛するのは慎しみのないことかもしれません。しかし新響は既に30年もの間、音楽を愛する一心で、オーケストラの存続に不可欠な団結力と基盤を保ち続けてきたのです。それは容易なことではありません。例えば、若いお母さん達がベルリオーズやマーラーや伊福部の曲を練習しに毎週土曜の夜（これは必ず決まっている練習日で、遅刻は非難の対象となるし、出席をとって、団員一人一人の遅刻、欠席はオーケストラのニュースに載るのです）片手にヴァイオリン、片手に赤ん坊を抱いて来られるよう、託児所まで設けられているのです。

友よ、このように各自が可能な限り、時間とお金と筋肉を使っているのです（そう、筋肉――と言うのもコントラバスや大太鼓、指揮台、金管楽器等々を運ぶには丈夫な肩が必要ですから）。一部の団員はプログラムを準備したり、団員や〝インスペクター〟のコメントを載せた週刊のニュースの作成などもしています。役員はオーケストラの運営、音楽面での助言者であり、ホールの予約、プログラムの準備、チケットの販売、会計等に携わっています。

そして誰でもがすぐに入団できるという訳ではないのです。まずオーディションを受けて、幸運にも合格した者は、一定のトライアル期間を経てさらにオーケストラの倫理を説明するオリエンテーションを受けて初めて正団員となることができます。こうしたことにより、アマチュアオーケストラとしてはすばらしい団結と音楽レベルが作り上げられ、バルトークや、最近演奏し終えたマーラーの９つのシンフォニー、あるいはショスタコーヴィチ、ブラームス、サン＝サーンス、ブルックナーなどを演奏するための音楽的な障害は何もありません。

このオーケストラに音楽上の国境はなく、山田先生、芥川先生そして練習指揮者の森山氏の指揮の下で、特に我々にとっては未知の数々の日本人作曲家の作品の開拓者として演奏し、またたくさんのフランス音楽を含む幅広いレパートリーの音楽を演奏してきました。１月にはあの有名なサントリーホール

でポール・デュカスの「魔法使いの弟子」とベルリオーズの「幻想交響曲」を演奏します。それに最近山田先生の指揮でダフニスとクロエ、ラヴェル、ドビュッシーを演奏したのですから、フランス音楽がよく取り上げられていることがおわかりでしょう。なるべく早くに録音をお送りしましょう。オーケストラの演奏はCD、カセット、LPに収録されており、レコード店にも置かれているのです。

私は新響のフランス人メンバーではありますが、フランス音楽の評論家でも、音楽史の専門家でもありません。ただ、今回フランスの作品を演奏するにあたり、プログラムの係から私に依頼があったので思いつくことを簡単にまとめてみました。

標題音楽はしばしば民族音楽から題材を得てその民族性を表現しているので、この点ではいわゆる「純音楽」より解釈が難しいといえましょう。にもかかわらず新響は、作曲者ベルリオーズがこのきわめてロマンティックな幻想交響曲の自筆譜の中で明らかに表現している意図をよく捉えていると思います。

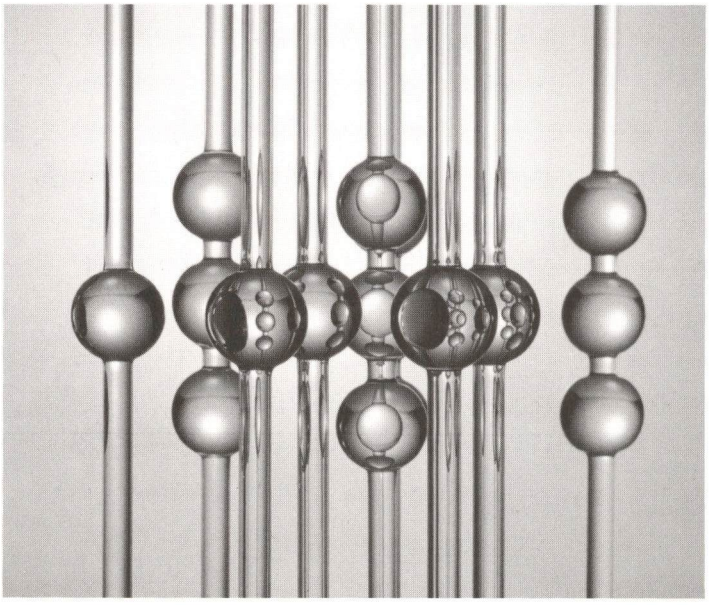
彼のスコアの脚注はとてもおもしろく、微細にわたっています。例えば「コールアングレが欠けているなら第2オーボエが吹くように」とか、「鐘のない場合、その代用としてグランドピアノ2台で、しかもそのピアノは舞台の真中に配置するように」など……まあ、そんな風です。同じように弦楽器の数もそれぞれ指定されていますが、それをいうと私は「降り番」にされてしまうかもしれませんので……！

デュカスの「魔法使いの弟子」は愉快な曲です。私は、おそらくゲーテ同様に、ウォルト・ディズニーも、この作品の生みの親なのではないかと思うほどです。金管楽器によって演奏されるきれいなメロディ！（**譜例**） 不幸な弟子が必死に師匠に助けを求める時、私たちは絶対に笑わないようにしなければなりません。

これからも、もっとフランス音楽を演奏したいと思います。私は、本当にこの素敵なアマチュアオーケストラに参加するのを楽しみにしているのです。

（Va. ルネ・アムラム――原文はフランス語　訳：市川あかね）





GLASS
COM
PRODUCTION

豊かな仕事がなかったら
豊かな人生なんて、ありえない。



豊かな仕事へ。豊かな人生へ。
富士ゼロックスのニュー・ワーク・ウエイ。

仕事って、つらくて苦しいもの、というイメージですか。

仕事には、能率とか効率、速さ、なんてことばがぴったりくる、とお考えですか。仕事のことを考えていると、なんだか口がへの字になりそうですか。それとも二コッとなりますか。

人間、とにかく、仕事をやめるわけにはいきません。人生の大きな部分が仕事なのは、事実です。もし仕事がストイックなだけだったら、人生だってストイックになるし、仕事が楽しくなかったら、人生だって楽しくない。仕事の影響って、とても大きい。

富士ゼロックスは仕事に、豊かな、という形容詞をつけて考えたいと思います。豊かな仕事を実現することにより、豊かな人生に貢献したい。それが、富士ゼロックスのニュー・ワーク・ウエイです。新しい技術を、製品を、システムを、サービスを考えるとき、豊かな仕事につながらないようなものなら、やめます。速いだけがいいわけじゃない。効率だけがすべてじゃない。仕事をする人だけでなく、家族の笑顔にまでつながるような「ニュー」を。ネットワーク・システムや、ワークステーションなど、新しい技術の豊かな果実を、豊かな仕事の実現のために。オフィスと仕事、人間の新しいありかたを探るサテライト・オフィスや、リゾート・オフィスの実験などは、その具体的な試みです。

豊かな仕事へ。豊かな人生へ。新しい目で、柔らかな心で、富士ゼロックスは進んでいます。

富士ゼロックス株式会社
〒107 東京都港区赤坂3-3-5
電話03(585)3211
XEROXは登録商標です。

XEROX


音楽、すくすく。
著作権が育てる、
かけがえのない音楽
植物がすこやかに育つには、水や光が必要なように、音楽がすこやかに育つには、著作権がしっかりと守られることが大切です。
JASRACはやがて創立50年——ひたすら著作権を守り、音楽を育てていきます。
JASRAC
日本音楽著作権協会
理事長　芥川 也寸志
〒105 東京都港区西新橋1-7-13 ☎(03)502-6551

アマチュアオーケストラ

